

富士見に残る林

昭和30年代の大都市への人口集中に伴い、郊外の富士見にも都市化の波は急速に進みました。かつて武蔵野では、ケヤキやカシなどの樹林が典型的な農村風景を形づくっていました。今では寺社林や屋敷林などにわずかに残るのみとなつてしまいました。今回はかつての武蔵野の風景を思い起こさせる市内の雑木林をご紹介します。

富士見に残る屋敷林

農家の敷地内に家を囲むようにつくられた樹林は屋敷林と呼ばれ、ヤマとも呼ばれています。屋敷林は敷地の境界を示すだけでなく、季節風の強い地域では防風林として、また防火の役目なども果たしていました。



鶴馬に残された屋敷林

落ち葉は堆肥として、枯れ枝は燃料としても当時の農家の生活には欠くことのできないものでした。また、ケヤキは堅く耐久性もあることから、建築用材や建具としても重宝されていました。

御林

江戸時代に記された『鶴馬古絵図』を見ると、御林の文字がいくつも見ることが出来ます。

これは江戸幕府の管理下にあった山林や諸藩が抱える同様の山林のことを言います。市内では台地の奥部にあった鶴瀬東・鶴瀬西・上沢の地区に集中しており、それぞれに「柿沢御林」「殿山御林」などと呼称がつけられていました。この地域は川越藩領に属していましたが、藩が新田を開発する際に燃料や肥料を確保するために造成したと考えられています。殿山御林については現在の富士見台中学校が建つ高台にあたり、今では宅地造成されその風景を見ることはできませんが、権平川沿いに広がる柿沢御林は記録上では約1万4千㎡にもおよび、現在の緑の散歩道「権平山」「貝戸の森」周辺にあたります。今なお残る雑木林はその名残でしょうか。



貝戸の森

問合せ／生涯学習課 ☎637

Young 21



たかはし なつき
高橋 夏月さん
富士見高等学校 2年

題「浸壊餓紗鬮腰」



|| 先生から一言 ||
「生」と「死」を対比させる主題はよく使われるモチーフですが、ヴィヴィッドな色彩と現代的な手法で画面に新鮮さを与えています。



たかの るりか
高野 瑠里佳さん
水谷小学校 6年

題「カラフルパズルの小物置き」



|| 先生から一言 ||
一枚の板から細かいパズルのピースに切り、丁寧に着色して組み立てました。

人口と世帯数

人口… 107,828人 (前月比 +15人)
(9月1日現在) 男 53,923人 (前月比 -7人)

世帯数… 46,987世帯 (前月比 +29世帯) 女 53,905人 (前月比 +22人)

●編集 総務部秘書広報課 ●発行 富士見市(月1回1日発行)

〒354-8511 富士見市大字鶴馬1800番地1

☎049-251-2711

市ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

携帯版アドレス <http://www.city.fujimi.saitama.jp/mobile>



携帯版

再生紙使用